

授業で使える写真素材 III-3

「ボランティアの心がまえ」 (50分)

対象／中学生・高校生

1. プログラムの趣旨
ボランティア活動の意義の理解と参加 (学級活動)
2. ねらい
ボランティア活動の意義や活動内容等について理解し、被災者の立場になって、自分のできることを考える。
3. 展開

段階	学習内容	教師の支援・指導上の留意点
導入 (5分)	①泥かきの写真を見て、震災後の復興の状況を想像し、考えを発表する。 ・この写真は、東日本大震災後の写真です。 ・何をしているところでしょう。	・東日本大震災の復興の状況を写真から想像させ、発表させる。
展開 (35分)	②災害時のボランティア活動には、どのようなものがあるのか、グループで考え発表する。 ・震災の時には、多くのボランティアが被災地で活躍しました。他にどんなボランティアがありましたか。また、震災から3年後はどんなボランティアがおこなわれているでしょう。 [震災直後] がれきの撤去/清掃/心のケア/介護/写真の洗浄/避難所での食事づくり/足湯/マッサージ/支援物資の仕分け/ヘアカットやメイク/話し相手になる/物資や家財道具の運搬 など [3年後] マッサージ/地元のお祭りボランティア/カフェ提供/絵手紙づくりやアクセサリーづくりなどを、教えながらお話を聞く/観光を兼ねたボランティアツアー など ③ボランティアを受ける側とおこなう側の気持ちの違いを、グループで話し合い発表する。 ●ボランティアを受ける側である被災者は、どんな気持ちでしょうか。 ・助けてほしい。手を貸してほしい。 ・きれいにしてほしい。 ・ありがたい。助かる。 ・来てくれて感謝。 ・話し相手になってほしい。 ・立ち入った話を聞いてほしくない。 ・見知らぬ人に任せて大丈夫かな。不安。 ・家の近くの空き地で野宿されて迷惑。 ・夜騒がれて迷惑。 ●ボランティアする側は、どんなことに気をつけるとよいでしょうか。 ・被災した方々の気持ちやプライバシーに配慮すること。 ・相手の気持ちや立場になって考える。 ・写真撮影をむやみにしない。(ピースなどしない) ・自己満足にならない。 ・お礼や見返りを求めない。 ・軽い気持ちで参加しない。(持ち物を忘れる等) ・活動する側の気持ちを押しつけない。 ・プライバシーに立ち入らない。 ・ゴミなどを自分で持ち帰る。マナーを守る。 ・不安を与えないよう、名札や身分証を身につける。 ・ありがた迷惑にならないようにする。	・震災直後は、たくさんのボランティアがあり、被災者を支援していたことを思い出させたり、伝えたりする。 ・震災直後と何年か経過した時とでは、必要なものやボランティアのニーズが違っていることに気づかせる。 ・何年か経過後、ボランティアの人数や活動内容は減ってはいるが、まだまだ支援が必要で、ボランティアはおこなわれていることをおさえる。 ・ボランティアを受ける側と、おこなう側との思いの違いに気づかせる。 ・グループごとに発表させる。 ・グループ内での話し合いを通して、お互いの知恵を出し合い、問題を解決させようとする態度を育てる。また、他のグループとの意見交流を通して他の考え方を理解させる。
まとめ (10分)	④今日学んだこと、感じたことをまとめる。 ・ボランティア活動をする際に必要な心がまえは何かを考えてみよう。	・ボランティア活動をする際の心がまえの大切さや、実際のやり方について自分が感じたことを発表させる。

写真を見て考えよう

年 組 番 氏名



Qこの写真は、東日本大震災後の写真です。
何をしているところでしょう。

Q震災直後のボランティア活動

Q3年後のボランティア活動

Qボランティアを受ける側

Qボランティアをおこなう側

